

数を増加するなど検討して、群落の拡大を抑制し、その場で許容される群落を適切に維持することが望ましい。

引用文献

- 浅井俊光ら 2006. アヤメ科植物によるカドミウムの吸収除去に関する研究. ランドスケープ研究 69(5), 451-454.
- Caffrey, J. and C. Monahan 1997. Natural aquatic plant colonisation in a newly constructed Irish canal. *Hydrobiologia*, 382(4), 479-486.
- Cody, W. J. 1961. *Iris pseudacorus* L. escaped from cultivation in Canada. *Canadian Field Nat.* 75, 139-142.
- Jessen, K. 1955. Is *Iris pseudacorus* thalassochorous? *Acta societatis pro fauna et flora fennica*, 72, 1-7.
- 角野康郎 1996. 「日本水草図鑑」, 文一総合出版, 61-63.

- 百瀬 浩ら 2001. ダム湖の水位変動域におけるビオトープ池 - 工法, 水生植物の生育と小動物の生息可能性の検討 -. *日本緑化工学会誌* 27(1), 136-141.
- Nelson *et al.* 1966. Cattail control methods in Utah. *Utah Dept. Fish and Game. Pub.* 66(2), 8-11.
- 遠田和雄 1998. 第4章 水域における水質浄化対策の実践 第2節 キショウブによる水質浄化法. 「河川・湖沼の水質浄化技術の開発と汚染対策」. 工業技術会, 253-268.
- 大滝末男・石戸 忠 1980. 「日本水生植物図鑑」, 北隆館, 110-111.
- Preece 1964. *Iris pseudacorus* in Montana. *Proc. Montana Acad. Sci.* 24, 1-4.
- Raven, P. H. and Thomas, J. H. 1970. *Iris pseudacorus* in western North America. *Madrono*, 20, 390-391.
- 桜井善雄 1989. 11 沿岸帯水域の緑化. 亀山章他編 「最先端の緑化技術」, ソフトサイエンス社, 197-212.

- 桜井善雄 1991. 水辺の環境学. 新日本出版社, 122-125.
- Sale, P. J. M. and R. G. Wetzel, 1983. Growth and metabolism of *Typha* species in relation to cutting treatments. *Aquatic Botany*, 15, 321-334.
- Sojda, R. S. and K. L. Solberg 1993. Waterfowl management handbook. *Fish and Wildlife Leaflet*, 13.4.13, 1-8.
- Sutherland, W. J. 1990. Biological flora of the British Isles. *Iris pseudacorus* L. *Journal of Ecology* 78(3), 833-848.
- 高橋理喜男・近藤哲也 2004. 第2部 事例研究 王立鳥類保護教会・英国河川公社・野生生物トラスト編 「野生生物のための河川環境管理 The New Rivers & Wildlife Handbook」, 環境コミュニケーションズ, 131-217.
- 富野耕治 1994. 「NHK 趣味の園芸 作業 12 ヶ月 ハナショウブ」, NHK 出版, 16-131.

田畑の草種

野花菖蒲・菖蒲・文目・綾目・杜若・黄菖蒲 (アヤメ・カキツバタ・キショウブ)

いずれもアヤメ科アヤメ属の多年草。アヤメは山野の比較的に乾いたところに生えるが、カキツバタもキショウブも日当たりのいい湿地や草原で生育する。アヤメの小さいものは30cmくらいから、ノハナショウブやキショウブでは1mを超えるものも多い。花色は紅紫色から青紫色、紫、紋や覆輪の入ったものからまれに白色もある。詳しくは中嶋佳貴氏の論文を参照されたいが、黄色のショウブはキショウブである。

「菖蒲」も「杜若」も在来で、古人の目についていたはずであるが、「菖蒲」はサトイモ科の「菖蒲」として万葉の時代から歌に詠まれ、一方、紫色の花をつける「花菖蒲」や菖蒲花は、「杜若」として詠われてきた。「伊勢物語」の9段、在原業平の東下り。

唐衣着つつなれにしつましあれば

はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ

の「かきつはた」を折り込んだ歌は高校の教科書にも取り上げられる。

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

「花菖蒲」は、近世以降、品種改良が進み多様な花色の園芸品種が作出されてきたが、黄色系の花色はなく、黄色の花菖蒲は明治に海外から持ち込まれる「キショウブ」まで待たねばならなかった。

「花菖蒲」や「菖蒲」、「杜若」を詠み込んだ句や歌は多い。それらはみな仲夏の季語であり、多くの句がある。歌でも多くの歌人が詠っている。そんな中に俵万智の「チョコレート誤訳みだれ髪」という歌集がある。与謝野晶子の歌集「みだれ髪」を俵万智流に解した歌集だが、その中に「花あやめ」を詠った歌があった。そこに1首、黄色の駄作を加えてみた。

庭下駄に水をあやぶむ花あやめ

鉄にたらぬ力をわびぬ 晶子

庭下駄に鉄を持って近づけど

池に落ちそうあやめは切れず 万智

庭下駄に落ちそうなほど気になれど

池の黄菖蒲鉄とどかず 美代